

**[拠点形成概要及び採択理由]**

機 関 名	早稲田大学	
拠点のプログラム名称	アジア地域統合のための世界的人材育成拠点	
中核となる専攻等名	アジア太平洋研究科国際関係学専攻	
事業推進担当者	(拠点リーダー) 天児 慧 教授	外 13 名

**[拠点形成の目的]**

東アジア共同体の構築をめぐる議論が盛んに行われ、日本政府も積極的に関与しようとしているものの、その学問的探求や、特に実質的な担い手作りとなると、断片的かつ消極的である。アジア各国を見ても本格的にこれに取り組んでいるところはない。日本の研究教育機関がこれに力を入れることは、日本にとってきわめて重大な戦略的意義を有している。

他方で、「アジア太平洋地域における知の共創」を掲げる早稲田大学は、ここ十年余りそれを担える人材とアジアの指導的大学とのネットワーク構築に取り組んできた。アジア太平洋研究科が1998年に設立されたことは、その最初の取り組みであった。さらには、21世紀COEプログラム「現代アジア学の創生」や魅力ある大学院教育イニシアティブ採択プログラム「海外連携型プロジェクトの有機的展開」、アジア研究機構などを通じて積み上げてきた広範なアジアの研究教育機関や実務家などとのネットワークを利用し、アジアの現実を深く理解できる研究者や実務家を養成する必要性は、今後ますます大きくなってゆく。

そこで本拠点では、「政治・安全保障」「経済」「社会・文化」の3つの領域に分け、それぞれ政治学、経済学、社会学のソリッドな方法論的基礎に基づいた世界レベルの研究に従事するだけでなく、そのクロスする領域にも目配りし、3班による緊密な共同作業による総合的な研究教育体制を構築することで、アジアの地域統合を下支えできる研究者や高度職業人を養成する。また、これら3つの領域に同時に関わる「ガバナンス」班を設け、アジアの地域統合の特徴を踏まえた、感染症や環境保護でのアジアの協力構築メカニズムをモデル化する。

領域・事業推進担当者ごとに国際的なプロジェクトを走らせ、若手研究者は複数のプロジェクトに参加しながら、独創的かつ社会的ニーズの高い研究に従事することで、研究者や高度職業人としての素養を涵養する。同時にワークショップやフォーラムでの研究発表や、サマーセミナーへの参加を通じて、専門性を備えながらもアジア地域を広く捉えることができる人材を、内外の諸機関、特にアジアの諸大学との連携によって育成することを目的としている。そうすることで、アジア地域統合のための知的インフラ作りに貢献できるといった、隠れた目的もある。

**[拠点形成計画の概要]**

アジアの地域統合を総合的に研究し、学問的・社会的フィードバックができる人材を育成する世界的に見てもユニークな研究教育拠点を作り上げる。21世紀COEプログラム「現代アジア学の創生」は、東アジア共同体の構築をテーマに絞っていったが、本拠点は、そこで得た研究の知見や研究教育の過程で形成したネットワークを最大限に利用して、アジアの地域統合を下支えできる研究者・実務家を育成する、アジア版「エラスムス計画」の実現をめざす。

政治・安全保障領域では、包括的・総合的にアジアの政治・安全保障の特徴を捉えられる人材(外交官や国際公務員など)を輩出する。経済領域では、アジア諸国における経済発展パターンの類似性・差異を理解した上で、貿易・投資主導的な経済発展を可能にする条件を捉え、政策立案できる力をもつ研究者や高度職業人(国際エコノミストなど)を育てる。社会・文化領域では、アジア各地における価値観の変化や異同を理解し、多文化状況を迎えたアジアが逢着する政策的課題、アジア市民性の涵養を目指す国際教育モデルを構築する人材(リサーチャー、NGO職員、国際協力専門家など)を育成する。また、クロス領域では、FTAの政治経済過程分析やアジア企業の人的資源管理の比較分析を、ガバナンス班では、アジアの特殊性を踏まえた感染症防止や持続可能な環境政策のモデル化をそれぞれ行うが、博士後期課程学生は、複数のプロジェクトに参加することで、独創的で社会的に有意義な研究に触れることになる。

博士論文提出に繋がるよう、事業推進担当者が共同で研究指導を行い、年に一度は、学生主催の「院生フォーラム」か、教員主催の「博士後期課程ワークショップ」で外国語による報告(外国人留学生の場合には日本語か英語)を義務づけることで、博士号取得までのプロセスを厳格に管理する。国費の外国人留学生には4年以内での博士号取得を義務づけるとともに、実務家を博士後期課程に入学させ、博士号の取得を促す。特に「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採択された『アジアの地域統合・地域間協力を支える指導者養成プログラム』と連携させることで、毎年10名、合計50名の、アジアの地域統合研究に関連する博士号取得者を輩出する計画を立てている。

機 関 名	早稲田大学
拠点のプログラム名称	アジア地域統合のための世界的人材育成拠点
<p>〔採択理由〕</p> <p>アジア地域統合のための人材育成を目指す世界的教育研究拠点として、将来構想、具体的な実施プログラムが明確で、これまでの教育研究活動の実績も優れており、計画全体として十分に期待できるプログラムである。</p> <p>人材育成面では、多数の留学生受け入れの実績の上に、新たに「アジア地域統合」という価値を導入しつつ作られたこの人材育成計画は十分に実現性の高いものとして評価できる。</p> <p>研究活動面では、21世紀COEプログラムの実績を踏まえ、地域統合という新たな課題に挑戦する本プログラムは時宜に適ったもので、事業推進担当者の実績からしてもその成果が十分に期待できる。</p> <p>ただし、地域統合の範囲、その内容にやや曖昧な点が残っており、この点での一層の検討が望まれる。</p>	